

# Rikkyo Club of Executives & Professionals 立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：大塚裕司 編集人：松原伸禎 事務局：TEL.03-3985-3135 <https://www.r-keizaijin.net/>

## 新春賀詞交換会

2024年2月2日（金）、日比谷松本楼にて毎年恒例となる「新春賀詞交換会」が開催されました。今回は合計105名（会員76名、ご来賓21名、ゲスト8名）の出席をいただきました。

18時からの第1部講演会では、MLBアナリストでありマスターズスポーツマネジメント代表取締役の内古義明様(91法)にお越しいただき、「人類スポーツ史上最高額”大谷翔平1015億円の契約の裏側～時給116万円の訳～」と題して1時間にわたりご講演いただきました。（講演内容は次ページ）

続く19時より第2部の懇親会がスタートしました。品川総務委員長（96経・株式会社太平社代表取締役社長）による司会の下、物故者への黙祷から始まりました。次に開会にあたり、大塚裕司会長（76営・株式会社大塚商会代表取締役社長）より、新年のご挨拶をいただきました。「ようやくコロナも明け、本日多数のご参加をいただき、コロナ以前にほぼ戻りつつある状況でこうして賀詞交換会を開催できることを嬉しく思っています」と声をはずませ、「コロナ明けの経済は間違いなく動き始めている。経済人クラブは様々な企業のトップを張る会員が集まっており、クラブにもたらされる様々な情報と、ご縁を組み合わせながら、工夫をし、動かなければならない年ではないか」と述べられました。

続いて、ご参加いただきました大学関係のご来賓



の皆様のご紹介があり、ご来賓を代表し、立教学院理事長福田裕明様よりご挨拶をいただきました。創立150周年の募金事業の仮集計がまとまり、目標としていた50億円を突破したとのご報告、また今春から「校友会アプリ」がスタートすること。楽しみながら皆で知恵を出し合ってアプリを育てていきたい、と期待をにじませました。



次に、西原廉太立教大学総長よりご挨拶をいただきました。経済人クラブからの大学への物心両面の支援の御礼、能登半島地震についての大学の対応、被災地域の立教関係者の皆さまを応援していきたい、と述べられました。また、いよいよ迫った創立150年に向けた意気込みを語り、2026年4月より池袋キャンパスで開設予定の文理融合型の環境学部（仮称）の新設について、今後の展望をお話をいただきました。

その後、千葉拡大委員長より昨年の総会以降に入会された新入会員10名の紹介、開宴前のお祈りを経て、和田成史立教大学校友会会長より乾杯のご発声をいただきました。今年は創立150周年ということで、校友会でも様々な行事への取り組んでおり、1月の箱根駅伝プロジェクト、今秋予定しているホームカミングデーも盛大に開催したいと意気込みを語られ、笑顔で乾杯となりました。

乾杯後の懇親会では、ローストビーフや松本楼名物のカレーライスをはじめ、おいしい食事とお酒を頂きながら、様々な業種、年齢の垣根を越えて情報交換が活発に行われておりました。最後に伊藤守副会長より中締めをいただき、閉会となりました。

—松原 伸禎 2000史—

## 新春賀詞交換会 基調講演

講師：MLB アナリスト 古内 義明

## ■初めに。

皆様はじめまして。1991年法学部卒業の古内と申します。在学中は体育会野球部に所属し、1990年東京六大学秋季リーグ戦優勝、明治神宮大会準優勝にレギュラーとして貢献させていただきました。その後スポーツビジネスを学ぶ為にニューヨーク市立大学でスポーツ経営学の修士課程を修了しました。昨年は、ワールドベースボールクラシック（WBC）の世界一奪還から始まり、100本以上のテレビ番組からお声掛けを頂きました。MLB取材は28年を数えますが、過去イチロー氏や松井秀喜氏と比べても、大谷翔平選手の人気の高さ、特に世代を超えた女性からの人気を実感しています。今日は大谷選手がいかにして、MLB史上最高額の契約を結んだか、という話を中心にしていきたいと思います。

## ■MLB売上1兆6千億円のビジネス

2023年、MLBは売上1兆6千億円というスポーツの枠を超えた金額を稼ぎ出しています。これは上場企業で言うと、107位程度に相当し、LINE ヤフーや大成建設などと同規模です。一方、NPBの年間売上は約2000億円で、その差は8倍に開いています。

MLBという組織は、コミッショナーを筆頭した経営陣の下にベースボールオペレーションと、ビジネスオペレーションに分かれています。野球部門は勝つ為のプロであり、ビジネス部門はお金稼ぎのプロです。ビジネス部門の下には、MLB独自のテレビ局やメディア運営会社、商標管理会社、WBC社など、5つの関連会社があります。

## ■ドジャース的中の3つの理由

私はこれまで、イチロー氏、松井秀喜氏、松坂大輔氏など、大物選手の移籍先を外したことはありません。昨年4月の段階で、テレビ朝日「羽鳥慎一のモーニングショー」で、羽鳥氏から、「移籍先はどこですか?」という質問があるなど、社会的な関心の高さは、過去のどの選手よりも突出していました。「モーニングショー」の中で、あの時点で、誰よりも早く、「ロサンゼルスの方、ドジャースに行くのでは」と予想しました。

昨年のオフ、MLB30球団のうち10球団以上が水面下で大谷選手に触手を伸ばしたと言われています。当然ドジャースもその一つであり、水面下でドジャース移籍について、取材を重ねました。

以下が、ドジャース的中の3つの理由です。

## ①「ALL dodgers」

ドジャースには何が何でも大谷選手を獲得するという並々ならぬ決意がありました。2023年のオフを見据えて、大谷を獲得する資金を確保し、DHとエースの座を空けて待っていたのです。

## ②ビジネス部門から、沸き起こる大谷獲得の声

1995年に「野茂マニア」という流行語を生み出したドジャースは他球団よりも、日本の文化やビジネスを熟知し、また、その活かし方に長けていました。しかし、2000年代に入り、「イチローのマリナーズ」や「ヤンキースの松井秀喜」というコンテンツの前に、苦杯をなめてきました。その結果、ドジャースの野球部門、さらにビジネス部門からも、「大谷待望論」が湧き上がっていました。

## ③3度目の正直... 失敗は許されない。



ドジャースは花巻東時代から一貫して大谷選手を追いかけてきましたが、最初のチャンスだったドラフト時は、獲得出来ませんでした。7年前、北海道日本ハムファイターズからのポスティング移籍時は、ドジャースの所属するナ・リーグにDHがなく、大谷選手の求める二刀流の希望は叶えられず、強くアピールできなかったという経緯がありました。そして、今回のFA移籍が3度目の正直だったのです。花巻東時代、大谷青年は、人生設計シートで、ドジャースでワールドシリーズ制覇という夢を描いていました。つまり、彼にとってドジャースは夢であり、実現しなければならない目標でした。

## ■“史上最高額”10年1015億円の背景

大谷選手はドジャースと10年1015億円というMLB史上最高額の契約を結びました。その巨額契約を実現した背景には、ぜいたく税（選手総年俸の基準額を超えた球団が機構に収める税）回避の為に、大谷サイドから「10年後の後払いOK」というフレキシブルな提案があり、ドジャースの戦力補強に全面協力する姿勢を示したのです。

ではなぜ単純計算で、100億円の年俸を3億円でよくて、残りの97億円を10年後以降の後払いで良いと言えたのか?それは、大谷選手がこれまでの選手では考えられないグラウンド外のCM契約などからの副収入が年間50億円以上にのぼることも一因だと考えられます。

大谷選手の時給は116万円、球場に行くだけで6200万円です。MLBの平均年俸は約6億3300万円。一方で、NPBの平均年俸は4468万円。714人の支配下選手全員の年俸総額は、319億128万円で、大谷選手一人が稼ぎ出す金額は、プロ野球選手全員の3年分に相当します。こう考えていくと、“二刀流”大谷翔平の存在が、いかに唯一無二であることが分かります。

よく東のヤンキース、そして西のドジャースと形容されます。ヤンキースはリーグ優勝40回を誇り、ワールドシリーズ（WS）制覇はダントツの27回で、WSの勝率は.675。一方のドジャースはリーグ優勝24回を誇るもののWS制覇はわずか7回であり、WSの勝率は.291と後塵を拝しています。

ドジャースは世界一になるために、大谷選手が必要で、大谷選手は、“二刀流”でチームの勝利、世界一に貢献したいと熱望しています。今季からはその点に是非注目して欲しいと思います。 —松原 伸禎 2000史一

## ワイン会・スタンディング交流会

2023年9月4日(月)神楽坂のワインブティック『Pure Wine Boutique AROMEVERRE』にて、ワイン講習会およびスタンディング交流会を開催しました。

ワイン講習会では、銀座の名店『マキシム・ド・パリ』等でサービスを担当された経験を有する、名ギャルソンの誉れ高い岡部一己氏に、今回はブルゴーニュワインをテーマにお話いただきました。スパークリングから白ワイン2種・赤ワイン2種まで、お料理と共にワインの知識を深めることができました。ワインをきっかけとしながら、会員同士のコミュニケーションもふかまり、非常に明るく楽しい講習会となりました。

スタンディング交流会では、同店のワインセラーより参加者同士で好きなワインを選定しボトルシェアをしながら交流を深めました。ワイン選定時からコミュニケーションを深めることができ、カジュアルな雰囲気の中公私とも幅広い

話をする事ができ、経済人クラブならではの様々な垣根を超えた交流を図ることができました。

ワインをきっかけに、食・旅・仕事など様々な話題へと話がはずみ、両会とも笑いが絶えない会となりました。

今回は、同日同場所にて2パターンのイベントを開催しました。初めての提案であり、案内等わかりづらい面もあったかと思えます。反省点は今後にかし、より皆さまの満足度が高いイベントやサービス等を計画・提案してまいります。イベントへの皆様の参加やリクエスト等お待ちしておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

—小田切 理紗 2009法—



column

### 本当は優しい「伊集院静」先輩 (辛口に秘めた思いやり)



安尾 圭司  
(1983年卒 日経情報活用アドバイザー)

作家の伊集院さんは長嶋茂雄さんに「野球をするならセントポールに来なさい」と言われ立教に入った。文学全集を寮に持ち込んだら「珍しい選手が来た」と、上級生が入り代わり見に来たそうだ。

その伊集院さんが昨年11月に亡くなった。突然の訃報に耳を疑った。私は日本そして日本人の美しさを伊集院さんに教えてもらった。二十四節句七十二候を楽しむようになり、その中で妻とも出会った。

出会いは15年前の2009年、「車窓に揺れる記憶」だった。東北新幹線のサービス冊子「トランベール」巻頭エッセイだ。文の中に込められた人を思う優しさ、そして美しい日本の風景。そこに郷愁と人間臭さを感じた。福山小夜さんのイラストがそれを一段と際立たせていた。

「逗子の海」のシーンは強く記憶に残っている。伊集院さんが東京に敗れ、故郷山口に帰ろうとした場面だ。「なぎさホテル」として本にもなった。同タイトルの新曲を桑田佳祐さんが2年前に出し

た。この曲名を伊集院さんはとても喜んでいただそうだ。

その後たくさん本を読んだ。1番は「冬のはなびら」だ。私は「日本人の心の美しさ」をこの短編集で再認識した。伊集院さんはここで「気骨について表現したかった」と書いている。

その他では直木賞の「受け月」。同じ作家が書いたとは思えない「羊の目」や「瑠璃を見たひと」。ハラハラ・ドキドキの連続で徹夜したことを思い出す。この2冊を紹介した夫婦も揃って徹夜した。そして自伝的小説「海峡」「春雷」「岬へ」。この3冊で伊集院さんの原点を知った。

日経新聞創刊140周年の連載小説に「琥珀の夢」が決まった時は嬉しかった。イラストは福山さん。ゴールデンコンビの復活だ。サントリーを創業者した鳥井さん。その早朝から働き続ける勤勉さ。酒で失敗後は仕事以外で一切酒を飲まなかった意志の強さに感銘した。なまけ者、そして酒で何度失敗しても懲りない私とは正反対だ。

伊集院さんは時に辛口でもあった。東日本大震災の後、あるプロゴルファーに対する言葉は厳しかった。「賞金を全額寄付する」に対し「それは君の仕事の金目の金ではないのか。他のプロゴルファーの立場は考えなくていいのか」と苦言を呈したのだ。

これは「プロなら広告でなく賞金で食いなさい」という愛の言葉だったのではないだろうか。本当は優しい「伊集院静先輩」。その人生にはたくさんの挫折があった。挫折を繰り返して、人は優しくなる。そう私は思う。

## 第2回 理事会

2023年11月22日(水)に第2回理事会が開催されました。コロナ禍が明けたので、呉先輩の新橋亭にて、大塚会長をはじめ、顧問、理事の方々、各委員長の19名にご参集いただいたのリアル開催となりました。

理事会では、大塚会長のご挨拶から始まり、本年度

活動の中間の報告と予算の執行状況について報告がなされました。終了後は、おいしい中華をいただきながら、ご参加者の近況報告をはじめ活発な意見交換も行われ、解散となりました。

—品川 高穂 1996経—



## クリスマス会

2023年12月20日、ホテルグランドニッコー東京台場にて開催されたクリスマス会は、美しい夜景とおしゃれな雰囲気のもと、55名の参加者（お子様2名含む）が集結しました。

特別ゲストとしては、チャプレン長が出席し、中東問題に触れながら心温まるクリスマスの説教を披露。プログラムでは、全員が当選するプレゼント抽選会が開催され、参加者が持ち寄った豪華で工夫を凝らしたプレゼントにより、会場は賑やかな雰囲気に包まれました。参加者からは過去にない豊富なプレゼントに対する好評の声が挙がり、協賛にも感謝の意が表明されました。会場のホテルグランドニッコー東京・台場は、校友である塚田様が総支配人を

務める素晴らしい会場でした。来期も会員同士の交流を一層促進するクリスマス会の開催を目指していきます。お楽しみに！  
—長谷川 章博 2000物—



## ウェルカムナイト

2024年1月26日19:00より、日比谷松本楼セントポールズ会館にて、本年度第2回ウェルカムナイトが開催されました。

ウェルカムナイトは、新入会員になった方を中心に、新入会員同士や既存会員との交流を深める親睦を目的とした会です。今回は16名のご参加をいただきました。（うち新入会員は7名）

新入会員でもある福田裕昭立教学院理事長（84年経卒）の乾杯のご発声と共に会はスタート。しばらくご歓談の後、司会を努めた千葉拡大委員長より、立教経済人クラブの活動内容や、事業計画の説明があり、新入会員の皆様お一人ずつに自己紹介をしていただきました。ご自身のビジネスについて、立教との関わり方について、経済人クラブ入会のきっかけ等お話をいただきました。会の後半には急遽松井秀征副総長にもご参加いただき、大学の現況と、国際化推進に関するお話をいただきました。

歓談の時間は立食形式で行われ、日比谷松本楼の

名物カレーを含む美味しいコース料理をいただきながら、終始和やかな雰囲気で進行していきました。特に今回は会話が弾んだのか、用意していた座席に座る参加者がほとんどいなかったほどでした。ウェルカムナイトはアットホームな雰囲気で開催されることもあり、会員同士が近い距離で立教での縁が深める絶好の機会です。次回も是非ご参加をお待ちしております。  
—松原 伸禎 2000史—



### information 経済学部インターンシップ支援

本年度も大学の夏季休暇時期を利用し、会員企業8社に学生インターンシップ受け入れのご協力をいただきました。経済学部との産学連携事業「インターンシップ」について、参加した科目履修学生8名全員が実習を完了しましたのでご報告いたします。学生の報告書が経済学部のキャリア教育サイトに掲載されました。ぜひ、参加学生がどのように感じたか等をご覧いただくと同時に、経済学部のキャリア教育の取り組みについても紹介されておりますのでご覧ください。

ご協力いただきました会員企業の皆様には心より御礼申し上げますと同時に、引き続き、インターンシップへのご協力をお願い申し上げます。  
—林 雄太 1995営—

■ 経済学部キャリア教育サイト「STORY」



受け入れのご協力をいただきました  
企業・団体様の一覧

企業名	受入人数
AMW コンサルティング株式会社	1名
株式会社大塚商会	1名
株式会社システナ	1名
株式会社トヨブラ	1名
株式会社フジサワ・コーポレーション	1名
株式会社フジタ	1名
株式会社三栄コーポレーション	1名
ワールドエンタープライズ株式会社	1名

# 建学の精神をたづねて

## ～文化としての日本の演歌という歌謡～

神保町シンクタンク 黒田裕治 (1978年3月 法学部卒)

プロフィール/1955年7月4日 広島県尾道市生まれ。立教高等学校 立教大学を経て、近畿日本ツーリスト株式会社勤務。2012年、独立して安曇野シンクタンク創立に加わり、現 神保町シンクタンクを主宰。トラスポヘルスケア販売株式会社創立

さて、前々回から日本の文化(文明)として、昭和の戦前戦後歌謡曲から、フォーク、ロック、ニューミュージックが外国曲と『文明との衝突』を起こし、そして融合、さらに新しい進化をしてきた場面に立教アルムナイのアーティストがその現場で立ち会っていることを検証して参りました。立教の大先輩、灰田克彦、ディックミネ、高石ともや(ハワイアン、ジャズ、フォークという西洋文明と日本文化の接点に立ち会った3氏の対応力)をご紹介します。

1970年代に入ると、吉田拓郎(長兄が立教大学出身)、立教女学院中高等学校出身で多摩美術大学卒業の松任谷由実、細野晴臣、高橋幸宏(立教中学、立教高校立教大学社会学部 高橋は武蔵野美術大学デザイン学科)、佐野元春(立教新座高等学校、立教大学社会学部)等、ニューミュージックの旗手たちは改めてご紹介するまでもなく、日本の音楽シーンを進化させてきました。

音楽シーンだけで日本文化を云々するにはかなり無理があります。(笑)ましてや、立教のアルムナイだけにスポットを当てて論ずるのは身量肩の誇りを受けるのは当然ですが、「文化と文化の接点でどういう現象が起こるのか～融合と影響と淘汰～」という視点で見ると、我々のアルムナイはなかなか大した役割を担っているのではないのでしょうか?

さて、作詞 作曲 著作家 音楽プロデューサー なかにし礼氏(1958年に立教大学文学部英文科に入学。中退と再入学と転科を経て1965年に立教大学文学部仏文科を卒業)は歌謡界のみならず、日本の音楽シーンで大変重要な存在です。特に日本人の「心」と言われている演歌を中心に「歌謡曲」という括りでじっくり取り上げてみたいと存じます。

1938年(昭和13年)9月2日、満洲国の牡丹江省牡丹江市(現在の中華人民共和国黒竜江省)に生まれる。元は北海道小樽市に在住していた両親は、渡満して酒造業で成功を取っていた。終戦後、満洲からの引き揚げでは家族とともに何度も命の危険に遭遇、この体験は以後の活動に大きな影響を与えた。実兄・正一は立教大から学徒出陣として陸軍に入隊し、特別操縦見習士官として特攻隊に配属されたが終戦となった。8歳の時に小樽に戻るが、兄の事業の失敗などで小学校時代は東京と青森(青森市立古川小学校)で育ち、中学から東京品川区大井町に落ち着く。東京都立九段高等学校卒業後、シャンソン喫茶でアルバイトをし半年ほどアテネフランセに通う。シャンソンの訳詩を手掛け、大学の入学資金も稼ぎ、大学在学中にヒットメーカーになる。一浪して1958年に立教大学文学部英文科に入学する。中退と再入学と転科を経て、1965年に立教大学文学部仏文科を卒業する(立教仏文の第1期生)。元タカラジェンヌで、シャンソン歌手の深緑夏代に依頼されたことがきっかけで始めたシャンソンの訳詞を手がけていた頃、妻との新婚旅行中に静岡県下田市のホテルのバーで『太平洋ひとりぼっち』(映画1963年公開)を撮影中の石原裕次郎と偶然出会い知遇を得る。石原に「シャンソンの訳なんてやっていないで、日本語の歌詞を書きなさいよ」と勧められ、約1年後に作詞作曲した作品(後の「涙と雨にぬれて」)を自ら石原プロに持ち込んだ。それから数ヶ月後、石原プロがプロデュースした「涙と雨にぬれて」がヒットする。

1969年には、作品の総売上が1,000万枚を超える。コンサートや舞台演出、映画出演、歌、作曲、翻訳、小説・随筆の執筆や文化放送『セイ!ヤング』パーソナリティ、NHK『N響アワー』レギュラーなども務める。

生涯作品数として実に4,000曲!代表的な曲と歌手を以下書き出してみます。

朝丘雪路「雨がやんだら」(1970年) アン・ルイス「グッド・バイ・マイ・ラブ」(1974年) いしだあゆみ「喧嘩のあとでくちづけを」(1969年) 岩崎宏美「女優」(1980年) 奥村チヨ「恋の奴隷」(1969年) 北島三郎「まつり」(1984年) 北原ミレイ「石狩挽歌」キャンディーズ「哀愁のシンフォニー」(1976年) 黒沢年男/なかにし礼「時には娼婦のように」(1978年、作曲も担当) ザ・ゴールデン・カップス「いとしのジザベル」(1967年) ザ・ジャガーズ「キサナドゥーの伝説」(1968年) 菅原洋一「知りたくないの」(1965年)「今日でお別れ」(1969年、第12回日本レコード大賞受賞) ザ・タイガース「花の首飾り」(1968年) ザ・テンパターズ「エメラルドの伝説」(1968年) TOKIO「AMBITIOUS JAPAN!」(2003年) ハイ・ファイ・セット「フィーリング」(1976年)【日本語詞】ピーター(池畑慎之介)「夜と朝のあいだに」(1969年) ザ・ピーナッツ「恋のフーガ」(1967年) 弘田三枝子「人形の家」(1969年) ペドロ&カプリシャス「別れの朝」(1971年-日本語詞) 黛ジュン「天使の誘惑」(1968年、第10回日本レコード大賞受賞)「土曜の夜何かが起きる」(1969年) 森進一「港町ブルース」(1969年) 由紀さおり「手紙」(1970年) 等々。

大ヒットだけではなく、印象に残る歌詞やメロディーの中に、その時々に関心事や社会現象を代弁するキーワードが散りばめられていると思いませんか?「歌謡曲」と呼ばれる音楽は今や、主に昭和世代のカラオケの定番ですね。さらにZ世代の若者までもが新鮮な切り口で興味を持って好んで歌う現象もあるようです。石原裕次郎とのエピソードで、日本の歌謡曲を手がけることになった「なかにし礼」ですが、元々の才能がチャンスを得て華開いたものなのでしょう。このように、我々のアルムナイは、明治時代から流入してきた外国曲の紹介から日本流のアレンジ、歌謡曲というオリジナルの日本の歌、同時並行でフォークソングやニューミュージックの流れにおいてそれぞれの場面で関わっていることが確認できたと思います。

余談ではありますが、日本演歌の大御所、八代亜紀さんは「石狩挽歌」を歌っています。北原ミレイさんで大ヒットした、deepな演歌ですが、この歌詞はなかにし礼さんの実兄の壮絶な実体験の内容で、八代さんのハスキーヴォイスで歌われると特に響いてくるものが感じられますね。(個人的見解です。)「なかにし礼」氏は2020年他界されました。ここに謹んで生前のご活躍を讃え、哀悼の意を捧げます。また、昨年暮れに八代亜紀さんも旅立ちました。昭和演歌を代表する方々が次々と逝ってしまいます。合掌。

### 参照

立教大学 hp 各アーティストの hp や wikipedia 等

## インタビュー

## 立教経済人をたづねて

新企画。各業界で第一線を走り続ける立教経済人を会報委員会がインタビューに伺います。インタビュー協力者様は自薦・他薦問わず随時募集中です。ご協力をいただける方は事務局までご連絡ください。

質問項目 ①入会したきっかけ ②事業内容 ③立教経済人クラブに入ったことで得られたもの ④苦労したこと楽しかったエピソード ⑤今打ち込まれていることやリフレッシュ方法 ⑥当クラブに望むこと

## 谷田 泰氏 1987 経 株式会社タニタハウジングウェア 代表取締役社長

①親戚でもある谷田権先輩が立教経済人クラブに積極的に参加しておりました。その方からのお誘いが入会の大きな理由となっています。入会してからはもうかれこれ 20 年ほど経っています。当クラブにご紹介した本村信人さんは年齢こそ離れていますが、同じサークルであり青年会議所でも活動を共にしていました。

②「雨のみちをデザインする」この言葉をコンセプトに、金属製雨といを製造・販売しています。創業当初は伸銅業でした。生き残るために銅の加工業をスタート、銅製の雨といが誕生しました。現在は創業 77 年目となります。自身が代表となってからは、ドロッカー・マネジメントをベースに雨といから得られる価値とは何かを考え、「雨のみちをデザインする」のが私たちの仕事だと考えました。雨の日だけではなく晴れの日の役割も大切だと考え経営しています。地域の工務店や建築家の方に指定いただき採用になることが多いようです。

③大手企業の先輩たちとお会いすると世の中を俯瞰してみるのが大切だと感じる機会が多くあります。同じ立教と言うだけで胸襟を開いていただける。なかなか知り得ない情報をいただけることにも感謝しております。

④15 年ほどまえにリストラをしております。当時、事業を支えていた銅雨といの売上減が止まらず、私が入社した頃から 1/3 程度の売上まで落ち込みました。当時、伸びつ

つあったガルバリウム雨といがなんとか軌道に乗り現在にいたっています。二度としてはいけない事だと今でも思っています。

良かったことは、顧客価値を基準に社内外で話ができるようになってきたことです。雨の日の役割、晴れの日の役割などを考えながら、どのような雨のみちを提案すればよいか?工務店、建築家の皆さんと同じ方向を向いて話ができる工務店さん、建築家さんが増えたことは嬉しい出来事です。

⑤様々な移動をできるだけ自転車に置き換えています。輪行して新幹線などに持ち込むこともあります。20 年ほどになりますが、おかげで体調も良好です。良いことを習慣化することは大切だと感じています。

⑥若い経営者と話したいと考えています。時代の変化が早いので、働き方などベースの常識が違う世代がどう考えているか、意見交換してみたいです。代表になって 20 数年。デフレベースで経営してきましたが、今後はインフレベースで考えていく必要があります。こうしたことも立教経済人クラブで学べると良いですね。

—村上 直人 1994立高一



## 本村信人氏 1996 法 リサイクルファクトリー株式会社 代表取締役

①谷田泰先輩とは大学のサークルで一緒させていただきました。その谷田先輩からお誘いいただき、北海道から参加したのが去年となります。在席したサークルはテニスが主な活動でしたが、想像以上に体育会系でした(笑)。

②産業廃棄物の処理が事業となります。処理といっても埋める・燃やすではなく循環社会に適応できるようリサイクルがメインとなっています。例えば北海道では農家さんが多く、肥料にリサイクルし大地に返すことで野菜となり我々に戻ってくるというイメージです。当初は北海道ケミカルとして先代が起業し、その上にリサイクルファクトリーが乗っかっている形となります。事業としては 30 年ほど行っています。

以前も東京にはよく来ておりました。札幌青年会議所に在籍しており 2006 年に日本 JC に出向しました。その時にも東京 JC のOBである谷田先輩とは繋がりがありました。

④元は札幌で会社を経営していました。その当時は JC もやっており、会社としても JC をやれる組織体制に向かっていました。その時に借入が膨らみ事業が立ち行かなくなり、

事業分割し会社を整理することになりました。現在の産廃会社の手伝いをする事となったわけですが、妻と小中学生の子供 3 人を抱え、会社では新入社員扱いという時が一番苦しかった時です。なんとか子ども達が希望する学校に通わせる(娘は立教)ことができましたが、もう二度と忘れない出来事です。

⑤妻とのコミュニケーションのためテニススクールに通っています。また JC で始めた、アイスホッケーも毎月練習しています。最近とくに打ち込んでいるのは、鹿の被害を無くすために駆除作業(ハンティング)に出ることです。駆除作業と言っても命を頂くことなので、最後は食べます。

⑥業種間交流や世代間交流など、新しい人が交流しやすい雰囲気があると嬉しいです。

—村上 直人 1994立高一



## 新しく会員になられた方々

(敬称略)

**安部 吉博** 2015 国際ビジネス法

 ㈱ライオン事務器 主任  
 〒160-0023 新宿区西新宿 7-3-7  
 E-Mail: yoshihiro.abe@lion-jimuki.co.jp  
 卸・製造・販売

**大岩 翔太** 2012 経営

 ㈱大岩商会 代表取締役社長  
 〒143-0003 大田区京浜島 2-13-5  
 TEL: 03-3790-0010 FAX: 03-3790-0020  
 鉄鋼製品販売

**岡崎 菜奈** 2008 経営

 ㈱清和光学製作所  
 〒164-0013 中野区弥生町 4-12-17  
 E-Mail: n-okazaki@seiwaopt.co.jp  
 光学機器、精密機器の開発、製造

**奥澤 淑宏** 1978 産業関係

 ㈱ランドインテリジェンス 代表取締役  
 〒150-0012 渋谷区広尾 1-9-15  
 広尾宮田アネックスビル 1F  
 TEL: 03-5793-8808 FAX: 03-5793-8899  
 E-Mail: ok@land-i.co.jp  
 不動産仲介業 売買・賃貸

**神谷 裕之** 1969 経営

 ㈱神谷ガーメント 取締役会長  
 〒460-0011 名古屋市中区大須 4-11-50  
 カミヤビル 1F・2F  
 TEL: 052-262-3088 FAX: 052-251-2008  
 E-Mail: hiroyuki-kamiya@t-kamiya.co.jp  
 紳士服、婦人服小売業、不動産賃貸業

**桐井 隆** 1993 産業関係

 ㈱桐井製作所 代表取締役  
 〒100-0011 千代田区内幸町 1-1-1  
 帝国ホテルタワー 18 階  
 建材製造販売

**黒河 剛** 1990 経済

 日本経済新聞社  
 グローバルイベントユニット グループ長  
 〒100-8066 千代田区大手町 1-3-7  
 TEL: 080-8128-5082  
 E-Mail: tsuyoshi.kurokawa@nex.nikkei.com  
 マスコミ

**古塩 賢太郎** 1984 経営

 丸和バイオケミカル㈱ 代表取締役社長  
 〒101-0041 千代田区神田須田町 2-5-2  
 E-Mail: k.kosio@mbc-g.co.jp  
 農薬、農業資材製造販売

**齊藤 崇大** 2011 立教高校

 日本コパック㈱ 取締役  
 メーカー

**齋藤 達雄** 2012 会計ファイナンス

 ㈱M&A ベストパートナーズ 代表取締役社長  
 〒100-7022 千代田区丸の内 2-7-2  
 JP タワー 22 階  
 E-Mail: saito@mabp.co.jp  
 コンサルティング

**齊藤 昇** 1986 経営

 BIPROGY ㈱  
 〒135-8560 江東区豊洲 1-1-1

**酒巻 圭佑** 2007 観光

 ㈱セールスフォース・ジャパン  
 エンタープライズ製造営業第二本部  
 〒100-0005 千代田区丸の内 1-1-3  
 日本生命丸の内ガーデンタワー  
 E-Mail: ksakamaki@salesforce.com  
 ソフトウェア

**酒匂 久美子** 2002 経済

 二島恒産㈱ 取締役 総務部長  
 〒105-0004 港区新橋 6-5-4 DIK 新橋 503  
 TEL: 03-6459-0203 FAX: 03-6459-0625  
 E-Mail: kumiko@nishima.co.jp  
 不動産

**高内 信吾** 2010 法

 豊玉タクシー㈱ 代表取締役  
 〒176-0014 練馬区豊玉南 2-10-17  
 運輸業

**中條 一紀** 2007 経営

 三井住友銀行 池袋法人営業第 1 部 次長  
 金融

**野口 昌邦** 1990 経営

 野口公認会計士事務所 代表  
 〒112-0011 文京区千石 3-17-4-207  
 TEL: 080-1024-6948  
 E-Mail: ymn1010n@i.softbank.jp

**樋口 宏** 2006 国際比較法

 ㈱エグゼクティブリンク  
 人材

**武藤 良輔** 2012 会計ファイナンス

 山田コンサルティンググループ㈱  
 経営コンサルティング事業本部 マネージャー  
 〒100-0005 千代田区丸の内 1-8-1  
 丸の内トラストタワー N 館 10 階  
 TEL: 080-4719-8599  
 E-Mail: mutour@yamada-cg.co.jp  
 経営コンサルティング業

**山崎 晴太郎** 2006 現代文化

 ㈱セイトロウデザイン 代表  
 〒153-0042 目黒区青葉台 2-3-1  
 小杉ビル青葉台 2 階  
 TEL: 03-6417-4874 FAX: 03-6417-4876  
 E-Mail: s@seitaro-design.com  
 ブランディング、デザイン、映像制作

**編集後記** この記事を書いている 3 月上旬、今朝起きてみると東京都内はうっすら雪化粧していましたが、三寒四温の毎日で朝晩はまだまだ寒い日が続いていますが、会報誌がお手元に届く頃にはポカポカ陽気で春の便りも届いていると良いなと思っています。話は変わり、池袋キャンパスに向かう立教通り沿いにある「Dream Coffee」がこの 3 月で閉店という噂を聞きつけ、先日コーヒー豆を買に行きました。コーヒーが好きなので、学生時代からよく通っていた思い出の店でした。コーヒーを飲んで学生時代に思いを馳せつつ、その延長線上でこうして経済人クラブの活動に関われていることが幸せだなと感じています。いよいよ創立 150 周年イヤーも新年度。当クラブの活動を楽しみたいと思います!立教に乾杯!

—松原 伸禎 2000 史—